企画監修／積水ハウス株式会社 総合住宅研究所

＃30 キッズでざいん

子どもはいつだって好奇心旺盛。だから住まいには、「安全・安心」が欠かせない！

高いところや狭い場所、動くものが大好きで、パパママのすることは自分もしてみたい…。子どもはいつだって好奇心旺盛ですよね。でも、その好奇心にヒヤッとすることも多いのではないでしょうか。積水ハウスは永年、子どものためのスマートユニバーサルデザインの研究・開発を行ない、その一環である〝グランドメゾンにおける安全・安心のための取り組み〟が「第11回キッズデザイン賞・経済産業大臣賞（2017年）」を受賞しました。今号では高い評価を得たアイテムをはじめ、子どもの成長を支える住まいの工夫の数々をご紹介しましょう。

KIDS DESIGN AWARD 2017

子どもにとって住まいは、大切な「体験・経験の場」。

幼い子どもにとって住まいは、いちばん身近な遊び場です。走り回ったり、飛び跳ねたりといった行動を通して身体能力や平衡感覚などを発達させます。

また、パパママの真似をすることで手先の器用さや想像力などの知性、友だちやきょうだいと過ごすことで思いやりなどの社会性を身につけていきます。

日々の遊びを通したさまざまな体験・経験の積み重ねが、子どものすこやかな成長の大きな力となり、住まいはその大切な場としての役割を担っているのです。

ただ、子どもは「こうしたらこうなる」という知識や注意力が十分に備わっていませんから、大人のように危険を察知することができません。そして好奇心が旺盛なので、視界に入るものは何でも触りたいし、目標物に向かって突進しがち。それがパパママの〝ヒヤッ〟につながります。

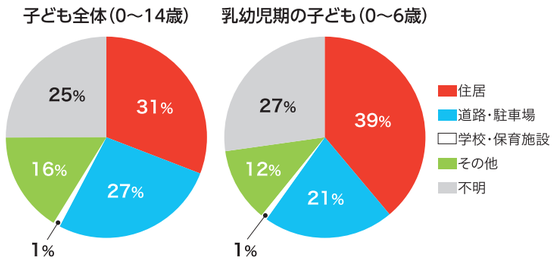
子どもの成長につながる体験・経験は大切にしたい、だけど本当に危ないことは避けたいし、できるだけ心配は少ない方がいい。そんな思いをカタチにしていくことが、子育て世代の住まいづくりのポイントになるといえるでしょう。

子どもの特性を踏まえた、安全・安心配慮が肝心。

実際に子どもが家庭内でケガなどに見舞われるケースは少なくありません。残念なことですが、不慮の死亡事故が発生する場所として住まいが30％以上を占め、その割合は子どもの年齢が低くなるほど高まります。

■子どもの死亡事故発生場所（2010～2014年の5年分）

出典：子供の事故防止関連「人口動態調査」調査票分析～事故の発生傾向について～（消費者庁／2016年）



では、子どもにとって安全・安心な住まいづくりを行なうには、どうすれば良いのでしょうか。まず考えたいのが、重大な事故につながる危険を住まいの中から取り除くこと。そして、子どもの身体能力の範囲でできることを把握した上で、遊びやお手伝いを通じて危険察知や危険回避のスキルを育む工夫を取り込むことが大切です。

積水ハウスは永年の研究をベースに、子どもの身体や行動の特性を「小さい」「弱い」「わからない」の3つに集約し、それぞれの特性に沿って住まいのアイテム開発や設計配慮を実施。「スマートユニバーサルデザイン」という独自のノウハウとして、子どももパパママも安全・安心な暮らしを提案しています。

■子どもの身体や行動・3つの特性

子どもは身体が小さく、高いところに手が届かずに無理な体勢になったり、行動姿勢のバランスが不安定になりがちです。

子どもは体力や免疫力が弱く、手足も不器用なため、いざというときの抵抗力や初めてのものへの適応力がありません。

子どもは好奇心旺盛でありながらも、注意力や知識力が未熟。知らずに危険なものに手を伸ばしてしまいがちです。

窓サッシのクレセント（鍵）、高さ140㎝の理由。

マンションの中で子どもの危険エリアの一つとして挙げられるのがバルコニーです。もちろん手すりは安全性に配慮した高さになっていますが、植木鉢やストッカー（屋外用物入れ）などが足がかりになって転落事故を招いたケースも報告されています。パパママが一緒にいれば気をつけられますが、〝ちょっと目を離したすきにバルコニーで遊んでいた、サッシは閉めていたはずなのに…〟という経験を持つ人もいるのではないでしょうか。

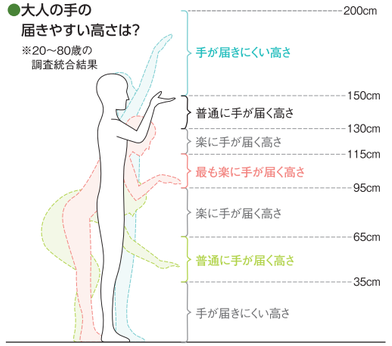
そこで子どものバルコニー事故を防ぐ工夫を検討。バルコニーの窓サッシのクレセント（鍵）は床から100㎝くらいの高さに設けられるのが一般的ですが、グランドメゾンでは140㎝に設定している物件が多くあります。実はこの140㎝にはさまざまな理由が秘められているのです。

まず、子どもの手が届きにくい高さというのが大きな理由です。1～5歳児を対象に垂直到達距離（手を上に伸ばして届く高さ）の調査を行ない、2歳児の平均が105・42㎝、3歳児の平均が120・94㎝、4歳児の平均が128・96㎝という結果に基づいて140㎝を割り出しました。

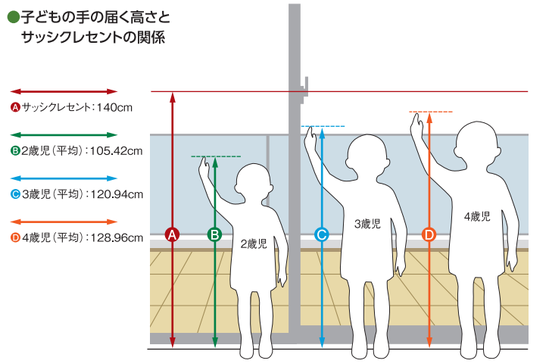
また、子どもの手が届かなくて安心でも家族全員が使いやすくなくてはなりませんから、大人の手の届きやすさも検証。140㎝なら80歳の高齢者でも無理なく操作できる高さで

あることを確かめた上で、最終的に140㎝に設定したわけです。さらにクレセントを締めると自動的にロックがかかる仕組みも導入。子どもの手が届いたとしても簡単にサッシを開けられない2重の安全配慮を施しています。

●大人の手の届きやすい高さは?
※20〜80歳の調査統合結果



●子どもの手の届く高さとサッシクレセントの関係



クレセントの高さを140㎝にしたバルコニーサッシ。自動ロック機能も備えた2重の安全性で「第11回キッズデザイン賞」でも高く評価されました。

大人には大丈夫でも、子どもには危ない箇所も。

子どもの身体は「小さい」「弱い」という特性を持っていて、大人が何気なく使っているものが、時としてケガを招く危険箇所になる場合もあります。

たとえば、収納などに採用されることのある折れ戸。大人の大きな指では扉の隙間に挟まれることがなくても、子どもでは指を挟んでしまうことも。まして小さな指先は皮膚も骨も弱く、少し力が加わることでケガをすることが考えられます。

グランドメゾンで採用している折れ戸は、子どもの指の大きさを調査した上で開発。中折れ部の隙間をほとんどなくし、小さな指が挟まれる心配を解消。さらに大ケガにつながりやすい玄関ドアでは、ヒンジ(蝶番)を工夫した指挟み防止機能を設けて安全性を高めています。

また、引き戸では、閉まる直前にブレーキがかかり、ゆっくりと静かに閉まるソフトクローズ機構を導入。指挟み事故を防ぐとともに、戸の跳ね返りや衝撃音を抑えます。

ただ〝危ないから〟身体が小さく弱いから〟と何もできないようでは、成長の機会を奪ってしまうことにもなりかねません。〝自分でする、できる〟を盛り込むことも住まいには大切です。

たとえば、壁スイッチを子どもの手の届きやすい高さ100㎝に配置し、操作しやすい大型プレートに。自分で簡単にON・OFFできることで、節電の習慣を身につけることにもつながります。

大型スイッチプレートを100㎝程度の高さに設置すれば、子どもでも操作できて節電の習慣も身につきやすくなります。

収納折れ戸の中折れ部は指挟みの要注意箇所。子どもの小さな指が挟まれないように隙間を最小限に抑えています。

好奇心が事故を招く、そんな心配を事前にクリア。

パパママと同じものを持ちたいし、同じことをしたい。そんな子どもの思いや行動は、すこやかな成長に欠かせないことです。ただ、そんな好奇心の旺盛さが大きな家庭内事故を招く心配のタネにもなりがちです。

特に火や包丁などの危険要素の多いキッチンは注意しておきたい場所です。ママが料理をしていると、いつの間にかすぐ後ろに子どもがいてビックリ。もしも熱くなったフライパンや包丁を持ったまま振り返っていたら…。

最近は対面スタイルやオープンタイプのキッチンが主流なので、子どもの様子を見渡しやすい反面、キッチン内に入ってきやすいという危険性を理解しておくことも肝心。集中して料理に取り組みたいなら、キッチンへの侵入を防ぐゲートなどを設けるようにしましょう。

もう1箇所、子どもの家庭内事故が起こりやすい場所が浴室です。知らないうちに子どもが浴室で遊んでいて、誤って浴槽に落ちて溺れるという事故は毎年何件も発生しています。

浴槽に水を残さないというライフスタイルを習慣付けるとともに、浴室自体に子どもが入れないように工夫することも一案。グランドメゾンでは、チャイルドロック付きの浴室ドアを提案し、万一の大事故を防ぐ住まいづくりを行なっています。

子どもの手の届かない高さに設けた浴室ドアのチャイルドロック。子どもを水の事故から守れ、心配をなくします。

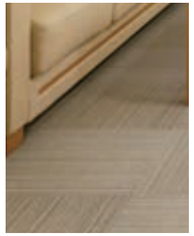
子どもの不用意な侵入を防ぐキッチンゲート。格子デザインとすることで、閉鎖感がなく、インテリア性も高めています。

安心して遊べるわが家、大ケガを防ぐ配慮を。

子どもは家中を走り回ったり、飛び跳ねるといったことも日常茶飯事。ただ、体勢を保持する能力や平衡感覚などが成長過程ですから、つまずいて転んだり身体をいろんな所にぶつけることも頻繁です。

■大ケガを防ぐ細かな工夫例

廊下へ突き出さないようにセットバックさせたドアハンドル。袖などを引っ掛ける心配が低減します。


クッション性が高く、足が滑りにくいファブリックフロア。転んだときの身体への衝撃が緩和されます。

壁のコーナー部に丸みを持たせた仕上げ。部屋の中から角を少なくすることで大ケガを防止します。

そんなとき、内装仕上げなどによって、ケガの程度は大きく変わってきます。尖った場所や硬い仕上げなどを、できるだけ少なくしておくのが有効。配慮例としては、カウンターやテーブルの角を尖らせない、壁のコーナーを丸くする、床をクッション性のある素材で仕上げるなどが挙げられますが、同時に、転んだり体勢を崩しにくくする工夫を考えるのが理想的といえるでしょう。

また、服の袖や裾を何かに引っ掛けて転倒するケースも少なくありません。床の段差やコンセントに挿したままの配線コードがつまづきなどの原因になるほか、室内ドアのハンドルや手すりのバーなどもウィークポイントになります。住まいの隅々に工夫を施して、安全・安心を高めておきたいものです。

子どもにとっては住まい全体が遊び場。伸びやかな空間づくりとともに、細かな部分への配慮が安全・安心につながります。

すこやかな成長を支える、マンションならではの工夫。

子どもがさまざまな体験や経験を積み重ねる場所は、住まいの中ばかりとは限りません。特にマンションの場合は、敷地内に設けた共用施設やガーデンも貴重な体験・経験の場となります。

グランドメゾンでは、共用スペースも子どもの成長を支える住まい環境と捉え、多彩な計画を行なっています。たとえば、ファミリーライブラリーもその一つです。心地よい空間づくりはもちろん、子どもの感性を刺激するような絵本やアート本などを充実できるように、ブックストアの専門家にセレクトを依頼して定期的に入れ替えるなどの試みを実施。単に場所を設けるだけでなく、より有効に使えるように運営面での仕組みを含めてプランニングするというスタンスを大切にしています。

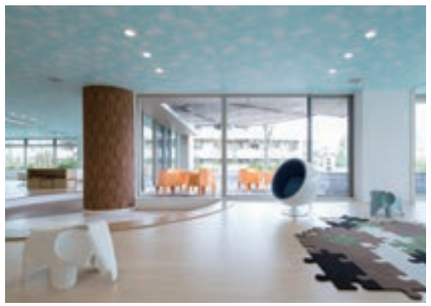
また、キッズルームやラウンジは、すこやかな成長に欠かせないコミュニケーション力や社会性を育む場として計画。家族同士や年齢の違う友だちとの出会いを生み出し、子どもにとってもパパママにとっても新しい世界が広がる機会となるようにしています。

さらにガーデンエリアも身近な自然学習・自然体験のためのスペースとして重視。積水ハウス独自の「5本の樹」計画に沿った植栽を行なうことで、季節の変化や生きものの営みを日常的に感じ取れる暮らしを実現します。

これら共用スペースは、多くの家族が集まって暮らすマンションならではの利点。子どものすこやかな成長を支える環境につながるようにと考えて取り組んでいます。

子どもが思いっきり遊び回れる広々としたガーデンエリア。樹々の色づきで四季の変化を身近に感じられます。

明るく開放感にあふれた吹抜けのラウンジ。カフェサービスを利用してくつろげるマンションも増えてきています。


自然光がたっぷりと入る伸びやかなキッズルーム。何組もの親子が一緒に楽しめ、家族同士のお付き合いも広がります。

カフェのような雰囲気を演出したファミリーライブラリー。さまざまな本との出会いが子どもの世界観を大きく広げます。